

かれんと

2021.9.24
時代の流れ
あるいは新しい潮流
No. 59

地球の仲間たちの子育てに感動!!

最近では男性の家事・育児への参加意識も向上しているようですが、「子育ては女性がするもの」との思い込みはまだまだあるようです。

男女が力を合わせて大切な命を守り育てる事がより豊かな社会の創造につながるのではないのでしょうか。今回は「人間以外の生き物」たちからユニークな子育てを学んでみたいと思います。

極寒、絶食、 過酷な環境で 卵を守るオス、 皇帝ペンギン

皇帝ペンギンのメスは産卵すると直ぐに卵をオスに預け、体力の回復とヒナに与えるためのエサを求めて海へ戻って行きます。オスは60日、飲まず食わずで抱卵囊(ほうらんのう)で卵を温め、ひたすらメスの帰りを待ちます。メスが戻る前にヒナが孵(かえ)ってしまうとオスは飢えた体から僅かな栄養をヒナに与えます(※ペンギンミルク)。メスの帰りが遅ければ父子には餓死が待っています!

メスが戻ると、今度はオスが体力の限界をおしてエサを求めて海へ向かいます。驚くことにオスは繁殖地への移動と再び海を目指す移動を合わせて絶食期間はなんと4か月にも及びます。子育て方法は違いますが、「一つの命を産み、育てる」重さは人間と同じ。オス・メス共に命と体を張って出産、子育てをする皇帝ペンギンに、私たちも教えられるものがありますね。



※ペンギンミルクとは

正確には胃や食道の粘膜を剥がしたもので、主成分はタンパク質。メスが戻ってこない時の非常手段(非常食)

鹿沼市ホームページから「かれんと」バックナンバーがご覧いただけます。
トップ>福祉・健康>人権・男女共同参画>男女共同参画>男女共同参画情報紙「かれんと」バックナンバー

ご意見・ご感想をお寄せ下さい 人権推進課メールアドレス jinken@city.kanuma.lg.jp

Question ジェンダーってなあに?

知っているようでよくわからない

モヤモヤに
お答え
します!

Question
最近ジェンダーってよく聞くようになったけど、「性別」とどう違うの?



【そもそもジェンダーとは?】

Answer

- ▶男女という生れながらの「生物的」性差に対して、「社会的」な意味合いから見た性差です。
- ▶例えば、「男だから働きなさい」「女だから家事をするのは当たり前」などというように「男はこうだ、女はこうだ」ということが、あたかも社会の常識のように捉えられています。しかしこれらは人間同士の約束事にすぎないもので、人間同士の合意で変えて行くことも出来るのではないのでしょうか。

【今は男女平等?】

Answer

- ▶昔に比べて男女差別は解消されていると感じるかもしれませんが、女性が出産や育児で休暇を取ることから、医科大学入試での合格点に男女差をつけて女性が合格しにくくしたり、入社試験でなるべく女性を採用しない企業があるという事が発覚したのはつい最近です。
- ▶また、夫に言われてイライラするのは、「育児手伝ってあげるよ」「お掃除手伝おうか?」などの言葉。家事や育児は女のやる事だと決めつけているから「手伝う」と言うのだと。育児も家事も助け合う意識が、これからの社会にはさらに必要です。

Question

今の時代、女性差別はもうないんじゃないかな?



Question

女性が力を発揮できる社会づくりは、誰もが生きやすい社会づくりに繋がらんんじゃないかな?



【SDGs 5 ジェンダー平等をめざして】

Answer

- ▶ジェンダー平等はSDGsで取り上げられている世界的な課題ですが、今年に入ってオリンピック開催組織元委員長が女性蔑視の発言をして辞任し、日本の男女差別意識が世界で問題になりました。
- ▶意識を変えるのは難しいことですが、身近な所から具体的に試してみたいかでしょうか?例えば子どもの洋服を選ぶ時、男は青、女はピンクなどと決めずに「好きな色は?」と聞いてみる。他者との違いを認め、尊重する、小さな一歩が社会を変えて行くのだと思います。

編集後記

5月と6月にうちの子ども達小学5年生と4年生がそれぞれ一泊で臨海教室、自然体験活動に行ってきました。

親と離れての泊りは初めての事だったので私はちょっとドキドキでしたが本人達はうれしい様子。後日カメラマンさんが撮影した写真をみると、楽しそうに過ごしている写真ばかりで(特に4年生の息子が)その写真を見ながら「よかったねー」と私も嬉しくなりましたが、反面ほんの少し寂しさも感じた初めてのお泊りでした。

編集員 高橋和子・太田吉友・原とみ子・下村久美子



キジバトはヤマバトともよばれ街中でもよく見かけるハトです。以前は農耕地や山、林などに住んでいましたが、人を怖がらず、今では公園・人家の庭など都市の中心部など様々な所で暮らすようになってきました。また**夫婦仲が良く一生涯伴侶を変えない**とも言われています。

キジバトは ピジョンミルクで 男女平等子育て!

キジバトの子育ては、他の野鳥とちょっと違います。真っ白な卵を2個産んで、メスは夜、オスは昼間と言うように交代で抱卵し子育てします。そして人間と同じようにヒナに**ミルク(ピジョンミルク)**を与えます。このミルクはメスもオスも出すことができます。

子育て(餌運び・巣の保護など)を**シェア**することで、負担は半分に減り、一度に少数の卵しか生まれなくても確実に成長させ、次世代に命をつなぎます。

※ピジョンミルク(和名=そのう乳)

「そのう」とは食道の一部が袋ようになったもので、食べたものを一時的にためておく器官です。この「そのう壁」から出る濃いチーズのような分泌物をピジョンミルクと言います。これには脂肪・タンパク質が含まれ、とても栄養のあるミルクです。ハトの他にフラミンゴもつくりだすことが出来るそうです。非常食であるペンギンミルクとは違い、通常の子育ての際に分泌されるものです。

様々な生き物の子育てを見て

皇帝ペンギンからは「命がけの子育て」、ゴリラからは「父の子育て力」、キジバトからは「男女平等子育て」など、生き物たちが未来に命をつなぐためにがんばる姿を見て、改めて自分にできる事、見直すことは何だろうか考える機会となりました。

昨年、鹿沼市では男女共同参画意識調査を行いました。その報告書によると「男女ともに仕事を持ち、家庭でも責任を分担するのがよい」と回答しているのは男女共にほぼ半数なのに、乳児・幼児の世話は「妻」が男女共に6割を超えていて、まだまだ「子育ては女性」という意識があるようです。

今年の6月3日には、「育児・介護休業法」の改正法が成立しました。来年4月から段階的に施行されますが、これによって男性も育児休暇を取得しやすい社会となることが期待されます。男女で子育てを共有して、職場でも家庭でも地域でも生き生きと過ごせるようになることを願っています。

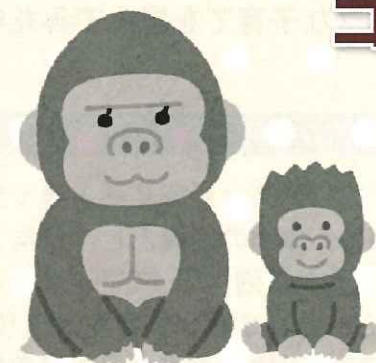
私たち人間の子育て期間は長いです。子育てにジェンダー平等の視点を持つことは、よりよい社会づくりにつながるのではないのでしょうか。

霊長類最強といわれるゴリラは一頭のオス(リーダー)を中心に数頭のメスが集まって群れを作り、一夫多妻の形で過ごします。群れの中でお父さんは一頭だけで、メス達に生まれた子どもは全員そのお父さんの子になります。

子どもは**産まれて3年ほどはお母さん**にべったりで過ごしますが、離乳するようになると子ども同士で遊ぶようになり、そこから**お父さんへと子育てをバトンタッチ**していきます。お父さんは子ども達の遊びを見守り、ケンカを始めると仲裁に入り攻撃を受けている方の子どもを保護します。

お母さんはわが子をかばってしまうので、すべて自分の子であるお父さんが子ども達を平等に扱う子育ては群れを守っていくうえでも非常に大事な役割です。

ゴリラの子育ては お母さんから お父さんへの 「バトンタッチ」型



こうしたお父さんの姿を見ながら、子ども達は社会性を学び成長していきます。

ゴリラは成熟した大人になるのに10~15年という長い年月を必要とします。これは哺乳類の中でもかなりの長さになりますが、これだけの年月をかけて子育てをするということは、学ぶことが多いという事と、ゴリラが子どもを守る力があるという事の証だそうです。

大きな体と大きな心で生きる知恵を教えながら子育てをするゴリラのお父さん。

包容力最強のイクメンです!

<この号を作成するにあたって参考にした書籍>

「正解は一つじゃない 子育てする動物たち」一般財団法人東京大学出版会
編者/齋藤慈子・平石界・久世濃子 監修者/長谷川眞理子

「いきもの人生相談室 動物たちに学ぶ47の生き方哲学」株式会社山と溪谷社
監修/今泉忠明 文/小林百合子 絵/小幡彩貴

「愛して育てるいきもの図鑑」株式会社カンゼン
監修/今泉忠明

「ハトの大研究 古代から人とともに生きてきた鳥」PHP研究所
文/国松俊英 絵/関口シュン

